

第 10 回 SG 伝熱管 ECT 検討会 議事録（案）

1. 開催日時 2026 年 1 月 22 日（木）10 時 00 分～11 時 30 分
2. 開催場所 （Web 会議のみ）
3. 出席者（順不同、敬称省略）
出席委員：磯見（日本原子力発電）、青木_公（関西電力）、青木_俊（北海道電力）、
河野（四国電力）、高野（発電設備技術検査協会）、手嶋（九州電力）、
西田（三菱重工業）、前田（原子力エンジニアリング）、
矢藤（原子力エンジニアリング）、山口岳彦（三菱重工業）（計 10 名）
代理出席者：（なし）（計 0 名）
欠席委員：（なし）（計 0 名）
オブザーバ：（なし）（計 0 名）
事務局：景浦（日本電気協会）（計 1 名）
4. 配付資料：
資料 10-1 SG 伝熱管 ECT 検討会 委員名簿
資料 10-1-1 SG 伝熱管 ECT 検討会 出欠予定表
資料 10-2 第 9 回 SG 伝熱管 ECT 検討会議事録案
資料 10-3 JEAG4208 規格改定ニーズ調査表
資料 10-4 技術評価書（2012 年版）における要望事項一覧表
資料 10-5 JEAG4208 改定スケジュール案
資料 10-6 【回答様式】_各 ATENA-WG への依頼について_SG-ECT 検討会
資料 10-7 【参考資料】_技術評価戦略ロードマップイメージ_SG-ECT 検討会
資料 10-8 2026 年度各分野の規格策定活動（構造）_r2
資料 10-9 構造分科会_2026 年度活動計画（案）_r1
5. 議 事
事務局より、本会にて、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないことを確認の後、議事が進められた。
 - (1) 検討会主査および副主査について
本検討会は、前回から暫く期間を置いての開催となったことから、改めて検討会主査を互選する事となった。その結果、青木_公委員が新主査に、さらに新主査の指名により西田委員が副主査に就任する事になった。
 - (2) 代理出席者の承認、オブザーバ出席者等の確認、会議定足数、配付資料の確認について
確認時点で、委員総数 10 名に対して、代理出席者を含めた出席者は 10 名であり、分科会規約第 13 条（検討会）第 15 項に基づき、会議開催条件の「委員総数の 2/3 以上の出席（7 名以上）」を満たしていることを確認した。また、事務局より配付資料の確認を実施した。
 - (3) 前回議事録の確認（審議）
事務局から、資料 No.10-2 に基づき、前回議事録案を紹介した。前回の検討会から年月を経ていることから、前回議事録案については、その当時に関係者にご確認を頂いているものとし、正式議事録とする事について承認を頂いた。
 - (4) JEAG4208 の次回改定について（改定に向けたスケジュール）審議

新主査より、資料 No.10-3～No.10-7 に基づいて、JEAG4208 の次回改定検討について説明があった。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

○インテリジェント ECT に使用するプローブについて

- ・今ご説明頂いた資料について確認したい。インテリジェント ECT に関してインテリジェントプローブを取り込んだ時には、「確性試験」を電力共通研究で実施して最終的に（規格に）取り込んだと思う。今回、その後継になるプローブの開発にあたり、確性試験と電力共通研究と同じことをメーカー殿の内で実施し、その後、発電技研殿による第三者レビューを受けたという説明であった。その対応は、「確性試験」とは呼ばないものなのか、「確性試験」という名前を使えない理由が何かあるのか？
- 「確性試験」という名前を使う要件については把握してはいない。どちらにせよ、確性試験を実施した後に、第三者に見て頂くという事をしていたと聞いている。そこで今回、その部分の対応を検討した時に、発電技研殿に相談したところ、「第三者レビュー」という仕組みで対応しているという情報を頂いたので、さきほど説明したような対応を取っている。
- 了解した。2012 年版で追加した X プローブからスマートアレープローブについて、指針の表の記載内容を修正した時にも、同じような対応をしていると聞いているので、今説明頂いたやり方で間違いはないと思っている。また、「論文掲載査読付き」については、最近のやり方としてそれが主流なので、今回はその項目が入っているという事か？
- そうである。ただし、基本的にはインテリジェント ECT プローブと同等だという説明にしようと考えている。すでに JEAG にインテリジェント ECT プローブの記載があるので、これと同等の性能の製品である事を示していくことを考えている。そうすれば、すでに認められた製品とほぼ同等の性能であるとして、対外的にもご理解を頂けるように進められると考えている。
- 了解した。
- ・もう一点質問がある。新型プローブを指針に取り込んだ後に実機に適用することになるが、メーカスケジュールの方では、指針取り込みの前に実機試行という記載がある。そこは同時並行的に進めるというイメージなのか？
- そうである。実機の試行の部分は、いわゆる規定やガイドの方とは関係ないといえれば関係ないのだが、実際に現場で問題なく使えるかという点については開発時点でいろいろと検証しており、実際に実機で使うにあたり問題がないという適用性のところを確認している。また例えば公知化のための活動であるとか、そういう部分を JEAG の中に取り込むということは考えてはいない。どちらかというと言場的な部分を書いている。
- 承知した。
- ・JEAG に例えばそのエックスプローブからスマートアレープローブに変えた時。その検証、確性試験というか、その時実施した試験の内容について共有しておいて頂くとういと思った。今回、新しいプローブの導入にあたり、信号がどういうふうに出るかという部分について、特に技術的に問題がないという事について、結果として信号の出方が変わらないというのは判ると思うのだが、何故それでいいのかについて判っていないと、説明時に難しいのではないかと考えた。
- 先ほど、信号の出方が同じだという説明をさせて頂いた。やはり基本的に確認頂く項目という

のは、このインテリジェント ECT の確性試験で実施した項目になる。そして電力共通研究でも確認した項目も一部取り込もうとしているが、基本的にはこの確性試験で実施した項目と。第三者による確認をして頂く事を考えている。例えば信号波形が一緒というだけでは、ちょっと（対外的な）説明が難しいと思っているので、そこは確性試験でこの時にやった項目を主体として確認して頂く事を考えている。

- ・2003 年のインテリジェントプローブの確性試験の時に、エックスプローブというプローブで、同じようなことを対応させて頂いたが、この時はあのプローブだけではなくて、ソフトウェアの方も一緒に確認をされていたかと思う。今回はプローブの検出性の確認だけという形になるのか。

→多分ソフトウェアと言われている部分には関わると思う。分析の仕方、データの採りの方の部分でいうと、インテリジェント ECT と同様に用いるので、その部分は確認して頂く事を考えている。

○資料 No.10-3 JEAG4208 規格改定ニーズ調査表 関連

資料 No.10-4 技術評価書（2012 年版）における要望事項一覧表 関連

- ・改定ニーズの調査表について。その資料は一旦私の方で案を作らせて頂きたいと思うがよろしいか？

→お願いする。今回の件外にも、例えば実際に現地で ECT 検査を実施する時に指針を使っている、こういうところが使いづらいとか、そのような事項もあれば挙げて頂きたい。そして、検討項目にしたいと思うので、そういった項目があれば記載頂きたい。

- ・今ご説明頂いたリストというのは、例えば構造分科会での報告時に使う予定はあるのか？

→この資料については、この検討会の中でのニーズ出しに使用し、今後そのリストで反映事項を整理するような形を考えている。構造分科会や原子力規格委員会に上程していく際にも、このフォーマットを使おうと考えている。このフォーマットに記載するべきかどうか迷うような項目があれば、ご相談頂きたい。基本的には、ここにリストアップしたものはそのまま上程時に使っていくという考えである。

→承知した。

- ・ニーズの調査表に書く事項について。ここに書くのは技術的な話であって、誤記でだったり、用語の読み替えだったり、引用する文献の年度を更新する等の事項は、この表には該当しないのではないかとと思うがどうか？

→今挙げて頂いた誤記とか、引用年番の更新等も表に挙げて頂いて構わない。

→承知した。

(5) 2026 年度活動計画について（改定に向けたスケジュール）審議

主査より、資料 No.10-8～No.10-9 に基づいて、2026 年度の活動計画案についての説明があった。

- ・資料 No.10-8 の中で、今日の JEAG4208 の次回改定について、どこに書いているのか？

→こちらの資料には、全ての規格について記載しているわけではなく、JEAG4208 に関しては現状記載していない。ただし、今日の検討会で次回改定の検討が始まったので、JEAG4208 に関する記載を追加してもよいのではないかと迷っている。ここは、構造分科会の方と相談させていただきたい。

→検討をお願いします。JEAG4208 についても、ここに同じように書いてもいいのではないかと

思う。

→今日の検討会を内容踏まえて、記載ぶりを考えたい。

→よろしくお願いします。

(6) その他

- ・ 特になし。

以 上